

朝日新聞社

事例から考える 地域探究の方法論

日時：2024年7月6日

場所：朝日新聞社

領域横断型

探究学習コーディネーター

木村諭史

配布版に際して

- 講演に用いた資料に、若干の訂正をしてあります。
- 特に、質疑応答・クロストーク部分のスライドを修正の上、末尾に追加しました。
- 講師間の談話では合意できていたものの、講演内で上手く伝えられなかったスライドは、次ページに重複して入れておきました。
- 省いたスライドもありますが、ご容赦ください。

探究における（課）**題**を考える

課題に限らず、“題”を含む言葉を整理しました

⇒ 質疑応答・クロストークの話題も整理

社会問題 = 課題

- 児童/生徒を駆り立てていないか？

教育環境の課題（問題）

- 例：教員の地域探究資源の把握不足、学内共有や地域連携不足に課題
- 例：自由度/難易度調整が課題

学習者が自ら考える学習課題

- 何をどう学ぶか決めていく過程（本来の探究学習における課題かと）
- **理想に向かって現実から自ら変えていくための取り組み**

お題・題材（発表のテーマ、分野、地域の探究資源）

- 研究の主題、テーマ。
- 地域の探究素材 ⇒ 題材

이슈、重要な論点

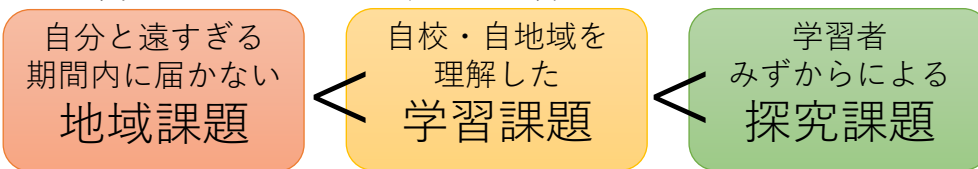
- プロジェクトの勘所（探究サイクル・掘り下げによる明確化が重要）

教育として、与えたい（課せられた）題、・・・宿題

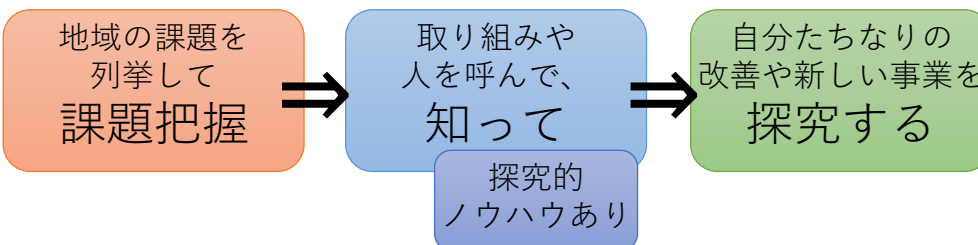
- 学習者に気づきを得てほしい、成長につながってほしい。
- 学校種を超えた、地域ならではのカリキュラムデザインが望まれる

木村より

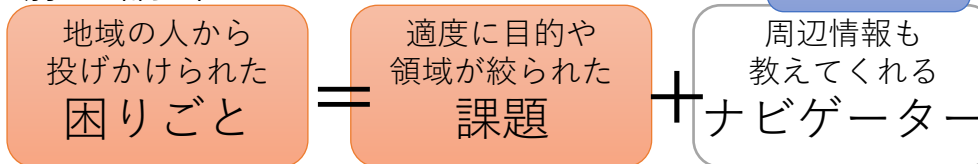
完全に自由な状態で社会課題とその解決に拘るよりも教育環境の課題を踏まえて、探究学習を整えてほしい



探究のステップとして、課題解決を出発点に挙げるのではなく、課題を知る・把握する⇒その後に取り組みや地域の人を知り、⇒自らの学習・探究の課題を解決していけるようにしてほしい



藤田講師より



木村補足：困りごととして提示されることで、地域課題を地域の学習課題・題材・お題として活用でき、ある程度方向性が絞られているから、集中して情報収集・探究できる。また相談者が周辺情報のナビゲーターとしてサポートできる。

地域は探究で 満ちている

自己紹介も、探究で満ちている
地域や社会の現場が、教育に近づいてきた！

自己紹介 木村諭史（さとし）



- 工学博士
(火山軽石を加工した商品開発)
⇒砂/天然軽石の体験観光
- 元：千葉大学客員准教授
講義『環境ビジネス』
- 地元学校でも探究講義
- 新島村議会 議長
- 地域活動（婚活・ウェディング）
- 探究学習/教育旅行の支援
熊本県、福島県、秋田県ほか多数

一人で産官学連携
ワークショップは、
幼児の砂場から、地域のまちづくりまで

開かれた議会活動を目指して

- (1) 議会を学ぶ (学校への出張講座)
- (2) 議員と学ぶ (議場での議員との意見交換)
- (3) 議場で学ぶ (議会体験、こども議会)

議会だより 第97号(令和3年6月)

[ホーム](#) > [新島村議会](#) > [議会だより](#) > [令和3年度](#) > [議会だより 第97号](#)

PDFでご覧いただけます

	内容
1ページ	表紙/表紙は語る (PDF) (421KB)
2~9ページ	一般質問 (PDF) (3462KB)
10ページ	電子決済特集(補正予算) (PDF) (916KB)
11ページ	総務常任委員会特集 (PDF) (1868KB)
12ページ	スピーカースコーナー (PDF) (334KB)
12ページ	編集後記 (PDF) (334KB)
第97号	全ページ (PDF) (5220KB)



地域課題の情報源として、
議会広報をオススメします！

- 無料配布どころか、貰ってくれると嬉しい！
- 年間の予算/決算と、新しい取り組みや最新の課題も分かる
- 一般質問は議員の探究成果！
- 議会関係者の説明も？

議会の議論も探究的に

広報にいじまお知らせ版 No.16



新島村の未来につながる
議会と議員定数について、一緒に考えませんか？

令和5年2月に改選予定の新島村議会。
前回の無投票を受け、議員定数の議論を活発に行ってきました。

1. 維持/削減と意見が分かれる
各議員の主張と、
議会の取り組みをご覧下さい



QRコードを読み込むと、
「議員と一緒に考える会」の
全資料をご覧いただけます。
報告は画面をご覧ください。



2. 土台となった
これまでの議事録もご覧下さい



- ・ 論点を整理しつつ議論
- ・ データを解析して検証
- ・ 各議員の考えを事前にまとめたから討論

- ・ 外部資料の論点も参考にしました
- ・ 全国町村議会議長会発行 議員報酬・政務活動費の実態に向けた論点と手続等 ~P56 議員報酬を考える8つの視点~を抜粋
- ①定数・報酬は議会がガリシメ示す
- ②報酬や定数の根拠をそれぞれを説明する
- ③削減=改革ではなく、住民自治の創出が先決
- ④多くの人が将来立候補し活動しやすい条件
- ⑤削減の機会には住民による政策提言・監視
- ⑥住民と考える議員報酬・定数
- ⑦特別職報酬等審議会の有効活用
- ⑧周知する十分な期間

3. みなさまの考えをお聞かせ下さい！

アンケート受付中

議員と一緒に考える会
オンライン (ZOOM) 開催

※木村本人が作成

多様な論点 (人口比率や仕事量など)

人口と議員定数など **グラフ化**

定数の増減は何を意味するかなど概念を **図解化**

住民参加の
報告会/意見交換会

地区ごとも・オンラインも
大学教員も出身高校生も参加

高校生の **探究素材**へ

議員からヒアリング
小論文にまとめる

地方議会の主権者教育事例集に掲載

三議長会より発行（2024/6/28）県・町・市・村議会の取り組みを紹介

- ・ 全国都道府県議会議長会
- ・ 全国市議会議長会
- ・ 全国町村議会議長会

- ・ 村議会では唯一の掲載
- ・ 高校と小学校を跨ぐ珍しい事例

地方議会が進める 主権者教育事例集



全国都道府県議会議長会
全国市議会議長会
全国町村議会議長会



東京都新島村議会
小学生議会体験・高校生新島研究

「主権者教育」
実践事例集

編集者
東京都新島村議会
事務局 公民教育課

1. 小学生議会体験（令和3年度）の例（島の未来を築こう！）

概要

- 議会を学ぶ（出席権） 土前議員（選挙区）が議会体験として議会を学ぶこと。子どもが議員になるか否かを投票する。
- 議員と学ぶ（議事録と議員文庫） 議員への質問（議事録）をもち、子どもが、地域の課題や未来をテーマに、議員と対話する。令和3年度は議員と議員との質疑応答形式、令和4年度は議員と議員との対話形式で、グループに分かれた話し合い形式。
- 議員体験を通して学ぶ 令和3年度は議員が地域課題を議論し、子どもも議論に参加し、投票する。

開催に向けた準備等

きっかけ
令和3年度に新島小学校3年生の議員から議員に打診があり、議会議員と2名大学教員が地域課題をテーマに、子どもと議員と対話を開始。

学校の運営
令和3年度は議員のいる小学校から議員に打診があり、議会議員と2名大学教員が地域課題をテーマに、子どもと議員と対話を開始。

参加議員の選定
令和3年度は議員のいる小学校から議員に打診があり、議会議員と2名大学教員が地域課題をテーマに、子どもと議員と対話を開始。

2. 高校生新島研究

概要

- 令和3年度に実施した議員定数の削減・議員の定数削減やそれに伴う議員の削減、地域高校生への地域課題の調査として令和4年度に実施。
- 議員とアングラ会 高校生から指名された議員が議会体験し、議員定数の削減・議員の削減に関するアンケート調査を実施して行った。令和4年度は令和3年度と同様に実施し、議員、議員、議員は議員とアングラ会として実施。
- 令和4年度は、令和3年度と同様に、議員とアングラ会として実施し、議員、議員、議員は議員とアングラ会として実施。

開催に向けた準備等

きっかけ
令和3年度に議員定数の削減・議員の削減やそれに伴う議員の削減、地域高校生への地域課題の調査として令和4年度に実施。

学校の事前打ち合せ
令和3年度は議員が地域課題を議論し、子どもも議論に参加し、投票する。

議員体験の役割
令和3年度は議員が地域課題を議論し、子どもも議論に参加し、投票する。

参加議員の選定
令和3年度は議員のいる小学校から議員に打診があり、議会議員と2名大学教員が地域課題をテーマに、子どもと議員と対話を開始。

50

51

地域は探究で満ちている

本日は、教育旅行を契機・接点として、
どのように探究的な見方・考え方で、
それに触れるか？、関わるか？、共有していきたい

探究の普遍性を問いながら論点をあぶり出し、
事例を探究的に整理しつつ、
方法論も一緒に考えていければと思います

大まかな対象 (木村講演部分内での説明)

地域特性・特色	←△見取りノウハウ
地域活動 (祭など)	←×別の機会に
地域プロジェクト/計画/調査	←△一部、事例で紹介
事業者	←○造成支援ノウハウ
人	←△見本/手本の補足

地域探究の論点と視点

自 地域で学ぶ探究

- 継続性を出しやすい
- ? 地域の自主性・主体性
- ? 学校ごとに異なる地域の意味合い
- ? 都市⇔農村型社会 学外の地域社会?

持ち帰る

お裾分け

他 地域から学ぶ探究

- 違和感を軸に気づきを得やすい
- 受け入れ慣れした事業者（手本/見本）
- ! 教育旅行/ワークブックの造成
- ? 関係性の構築

汎用的な探究

大まかな進め方

序盤

- 皆様/学校の立ち位置（都市 \leftrightarrow 農村型社会）
- 地域探究の見本と手本
- 探究学習観 \Rightarrow 探究のステップ
- 自由と自由自在

中盤：事例紹介

- 講師の事例にそって

学校の立ち位置と地域資源

		域内の学校数		
		10校以上ある 都市型	複数校ある 中間型	1-2校しかない 農村型
探究学習の 教員	多い ・複数職員体制	学術的な 先鋭化・差別化 大学連携 (PBL)		地域探究 先進地 島留学など
	普通 ・2-3名で担当		プロジェクト型 学習	地域活動に 参加・参画する
	少ない ・担当1名		地域の取り組みを 探究的に読み解く	
				地域の働く人を手本に ロールモデルを読み解く

木村のスタンス表明

地域探究を地域内の視点だけに留めない

- 昔の方が地域人材が多く、密度も高かったはず
- 新時代の、外からの評価・探究的視点があっこそ

自由の考え方

- 探究的な見方・考え方を習得して、
自由自在に活用していく学習/探究プロセス

サイクル/ステップ⇒前段階を大事にする

- 学ぶ < まねぶ < あそぶ（五感で感じる）

探究は社会全般に通じている。

- →総合の時間のみに押しつけない：各教科でも探究化
- →汎用性と有効性を確信/体感しつつ行う

探究学習の見本・手本

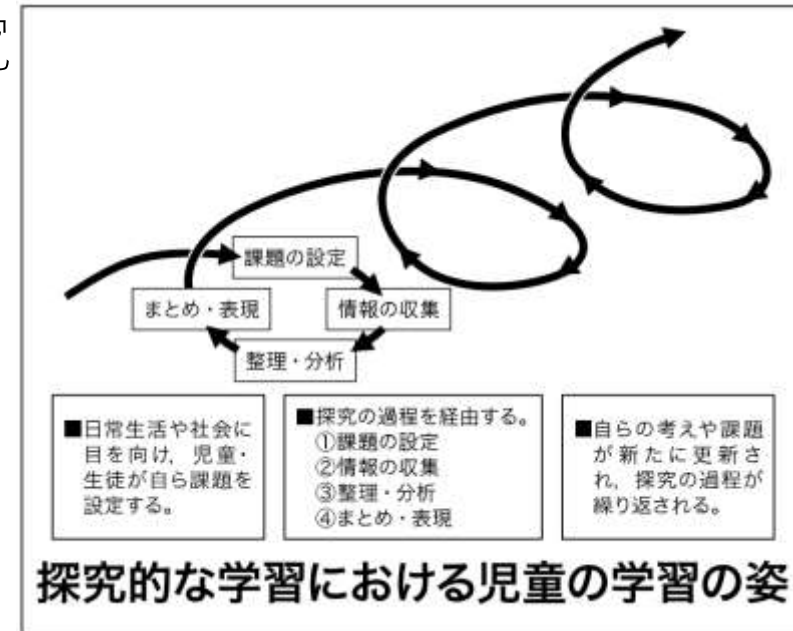
探究学習では、決まった“答”は望ましくない。
しかし先駆者の探究過程は、見本/手本になる。

地域の先駆者と交流する際、

- ・ 質問する ⇒ 思考を追う ⇒ 切り口をまねる
⇒ 学びになる！
- ・ お互いに理解できると
⇒ 参加させてもらえる、一緒に活動できる！

なにをしたら探究学習か？

- 地域/社会課題に関わっているから探究
- アクティブ（参加型）なら探究
- プロジェクト型なら探究
（商品開発、イベント実施など）
- 地元で活動しているから探究
- 自分で調べているから探究
- オープンエンドだから探究
- 思考ツールを使っているから探究



※高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説
総合的な探究の時間編より

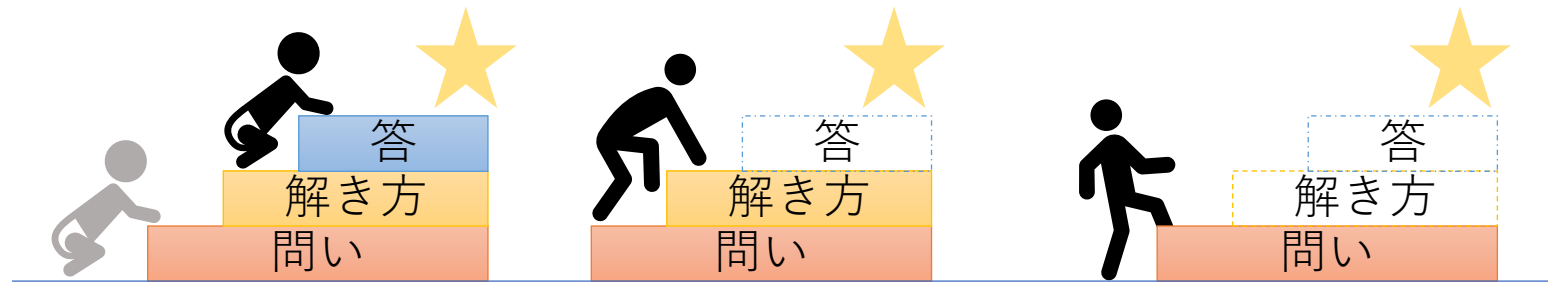
木村が重要視する点

- **学習サイクル**がある
- 学習者も学習環境も **ステップアップ** している
- 探究的な見方・考え方が加わっている（活用は自分で選ぶ）

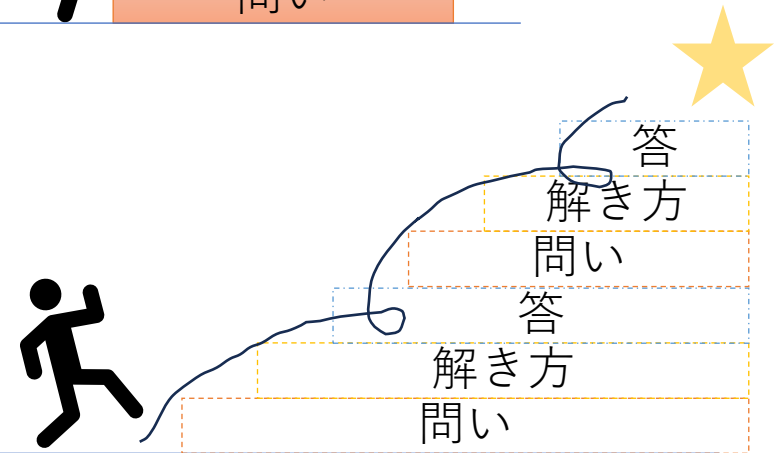
探究学習における適切なステップ

- 探究学習には、適切なステップが重要ではないか？

出典：Banchi & bell 2008
を参照に木村作成



- 探究学習は、サイクル的学習
 - 1週目の答えが次の2週目の問いへ
 - 自分なりのルート、解き方を考える
 - 各段の高さは異なるかもしれない
 - 何サイクルでゴールに至るかも不明



- いきなり自由に探究するのは困難 = “足かけ”が重要
- その前の『遊び』や『マネ』や『観察』も重要
- “問い”/問いかけは、どの段階でも重要

※もちろん学習者の意欲と環境（自ら整えることも含め）があれば、自分でステップを作って自走して探究することもあるでしょう

探究学習における自由と自由自在

- 自分で海（探究領域）を自由に行き来できる
- 自分の船を自由自在に操れる
- 自分の船だからどう弄ろうが自由という姿勢
- 船の上で自由に遊ぶ

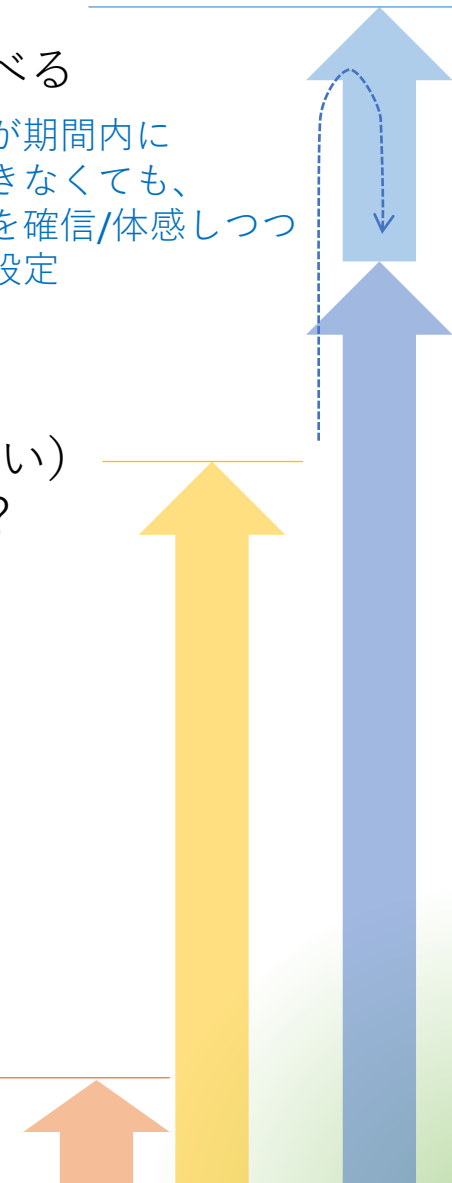
自律化
自ら探究の目的、領域を選べる

学習者が期間内に到達できなくても、到達点を確認/体感しつつ学びを設定

技能・道具としての習得
（ここを目的/ゴールにしない）
⇒ではその上で何をするか？

学びの場と学習者の権利
悪ふざけか⇔建設的か

一見自由に見えて、準備された土台の上（遊ぶ・親しむのは基礎として重要だが）



地域は探究で満ちている：3つの話題の軸

汎用性

探究学習ワークブック

トモノカイ：探究×SDGs
NOLTY：スコラ

トモノカイ：
地域×探究WB

朝日新聞教育支援プログラム
インタビュー講座

インタビュー（カタログ+手法）

- ・やまがたアルカディア観光局（木村）
- ・長良川×探究（トモノカイ）

木村：監修

地域特性
見取り軸

地域活動
探究図解

地域の見本
インタビュー

後半の
木村説明軸

学校内

地域内

木村：
地域活動にみる
探究要素の体系化

東武：
地域教育旅行
プラットフォーム化

地域人材との
関係性

探究的視点での
みとり/解釈

トモノカイ小川氏 事例報告を受けて

教育旅行×探究における、ワークブックのノウハウ補足
SDGs探究型プログラム造成：事業者支援の現状
教育旅行において、教える側、学ぶ側の両方に関わる
フレームワークなどを中心に説明します

教育旅行 & 探究の悲劇

レベル/目的がまちまち

- 小学校、中学校、高校、どこが対象？
- 探究学習経験歴の違い
- 修学旅行？ 地学的な演習？

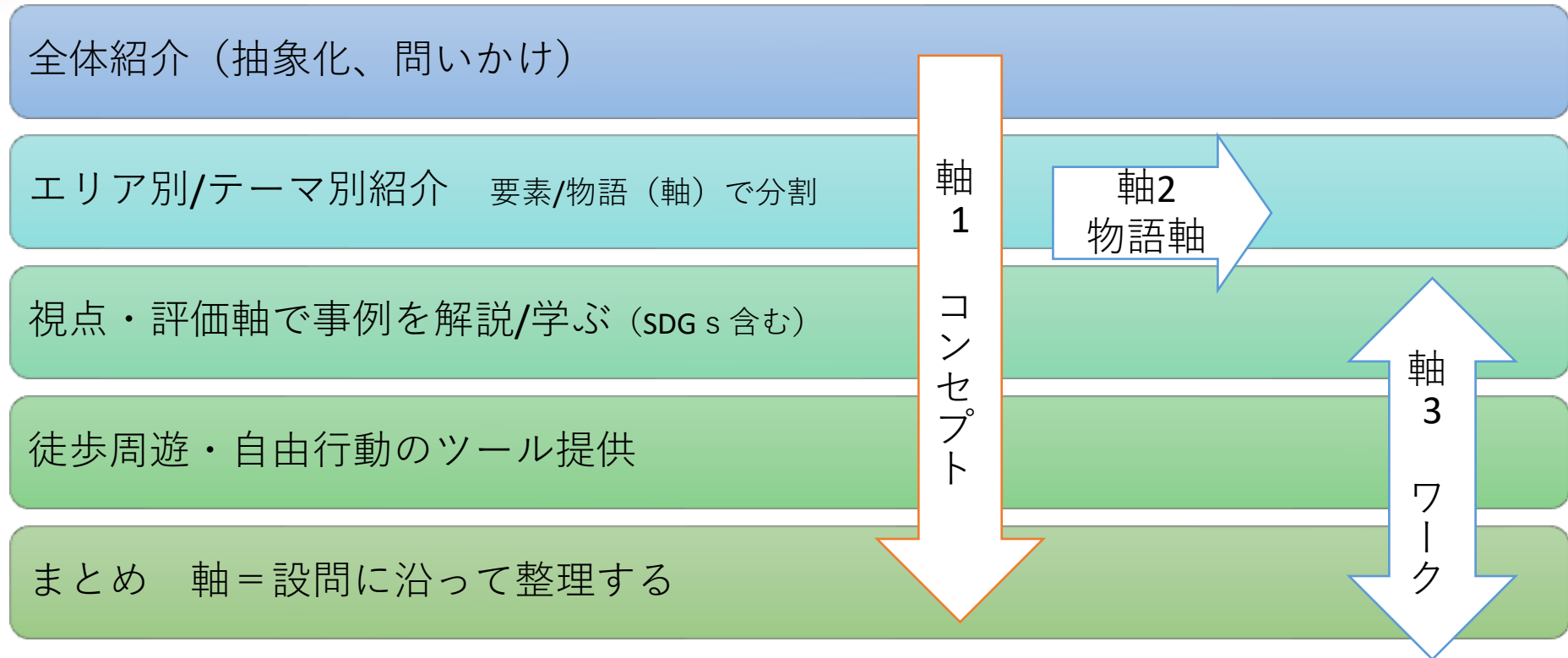
サイクル的対応がしづらい

エリア感が違い過ぎる（学習ノートなど）

- 県レベル、中域（DMO）レベル、自治体レベル
- 周遊はバス？徒歩？

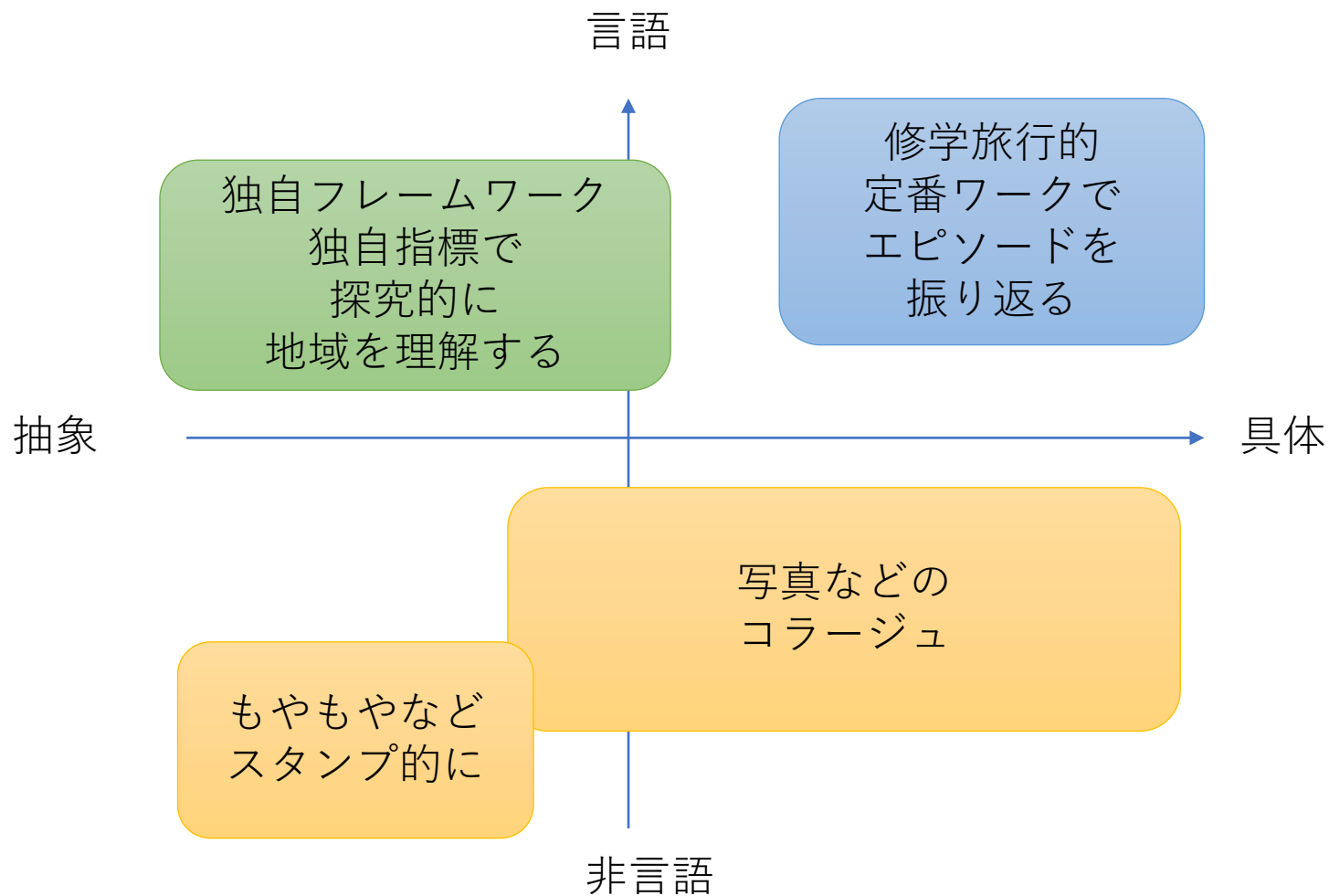
レベル設定、手法もまとまっていない！

ワークブック構成にあたって



- 地域の見取り/編集力は、探究的な見方/考え方と近い
- ワークの構成はいくつかあり、地域ごとに選んでいく
 - ・ 従前の総合の時間としての汎用的ワーク (修学旅行の事前事後学習)
 - ・ 探究的な対話的ワーク
 - ・ ご当地ごとの探究的な見方・考え方のワーク
 - ・ 非言語含めた興味関心ワーク
 - ・ 自分ごととして持ち帰るワーク

ワークの種類



学習ノートに見る探究手法：伊豆

- 具体性と汎用性の両立 ⇒ 『探究ものさし』を提示

IZU 探究ものさしで見つめてみよう

伊豆半島の取り組みをさらに探究的な視点を働かせて掘り下げてみましょう。以下に示したのは、取り組みを掘り下げたときの視点についてまとめた『探究ものさし』です。SDGsや時間経過などの観点ごとに、掘り下げたときの参考となる指標をまとめてあります。自分はこのものさしで掘り下げたいか、考えてみましょう。

※各『ものさし』の『☆指標』に沿って、自分の考えを整理しよう

【使い方】 取り上げたものをSDGsウェディングケーキモデルにつながる観点で見つめると、持続可能な社会としていくために必要なものが見えやすくなる。

「SDGs」ものさし

- ☆経済: 「経済」のゴールにつながるものはあるか?
- ☆社会/文化: 「社会」のゴールにつながるものはあるか?
- ☆環境: 「環境」のゴールにつながるものはあるか?

「なぜ？」ものさし

【使い方】 取り上げたものについて「なぜ」と自問し、その答えについてさらに「なぜ」「なぜ」と繰り返し掘り下げる（ドリルダウン）。すると、本質的な内容にたどり着きやすくなる。

- ☆なぜ: 「なぜ～なぜ？」とドリルダウンを繰り返しテーマの本質に迫ろう
- ☆なぜ: 「なぜ～なぜ？」とドリルダウンを繰り返しテーマの本質に迫ろう
- ☆なぜ: 「なぜ～なぜ？」とドリルダウンを繰り返しテーマの本質に迫ろう

「特徴」ものさし

【使い方】 取り上げたものを「伊豆独自」の観点と、「他地域との共通性」「それらの掛け合わせ」の観点でも見ると、「伊豆ならでは」に気づきやすくなり、その活用を考えやすくなる。

- ☆地域の独自性: 光り輝く宝石のような「伊豆ならでは」と言える部分はどこか?
- ☆他地域との共通性: 地域を超えて、他の地域と共通する部分はどこか?
- ☆掛け合わせ: 独自性と共通性を掛け合わせると何が言えるか?

「時間」ものさし

【使い方】 取り上げたものを伊豆の取り組みを参考に時間軸で見つめる。短期と中期、そして長期へとイメージを広げる（または逆に狭める）と持続可能な社会につながるヒントが見えやすくなる。

- ☆短期: 数ヶ月単位の時間経過を考えた場合、どのようなことが言えるか?
- ☆中期: 数年単位の時間経過を考えた場合、どのようなことが言えるか?
- ☆長期: 数十年以上の時間経過（歴史）を考えた場合、どのようなことが言えるか?

「要素」ものさし

【使い方】 取り上げたものが注目するのはなぜか。素材（コンテンツや対象）が素晴らしいのか、使っているツールか、伝えている人なのか、分解すると見えてくるものがある。

- ☆素材: 取り組みの題材となる対象やコンテンツ (Fish)
- ☆ツール: 取り組みに用いられている道具や仕組み (Kitchen knife & Cutting board)
- ☆見せ方・伝え方: 体験する人の錯覚を誘った伝え方 (Carpaccio)



▼12 ページで1つ選んだ『探究ものさし』とその指標・意見を書き込もう。

選んだ探究ものさし [] ものさし	
☆指標	☆指標
意見	意見

気づいたこと

視点の提示と、自ら選ぶ柔軟性を両立したワーク設計 ⇒ 事業者にも共有

ワークブック監修/造成において

- 高度なご当地の探究フレームワーク・図解を掲載できるかは、受け手の皆様次第のところでもあります。
- 都道府県レベルの事業は減少傾向で、解像度の高い小規模エリアなどに移ってきているかと思えます。
- 地域戦略（自地域探究でもある）・営業戦略、旅行実績、フィードバックが重要。

受け入れ事業者支援に おける探究要素

実際の造成支援事業における、
木村作成資料から、
一部そのままでお伝えします。

探究型プログラムに求められること

1. 主体的/対話的な学びの仕組みを作る

⇒事業者のウチ（根底）からソトへ

⇒掘り起こして伝える ⇒生徒も主体的に考え/行動する

2. 営業戦略として自覚して造成する

⇒強み/価値観/対象の確認

3. 体験のタネを選ぶ、図解を活用する

・・・深掘りからテーマの組み合わせ

・・・広い視点（他の軸など）でテーマの掘り起こし

従来

- ・ 完了した事例のみ商品化
- ・ 分刻みの現地体験
- ・ 個別のキーワード/体験



探究型

- ・ 課題/問題も学びになる
- ・ 事前事後学習による連続的学び
- ・ 自分との接点・学び

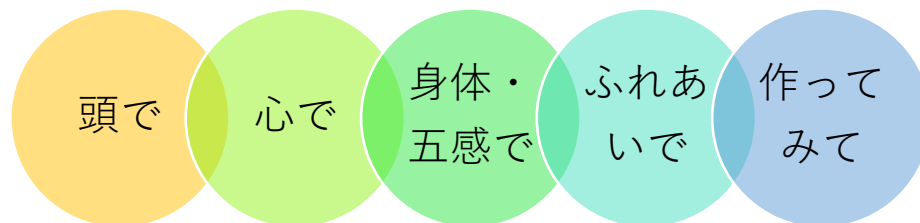
②強みと思いのたなおろしシート

氏名 _____
所属 _____

No. _____

【このシートのねらい】

造成の軸になる、あなたの思い、事業者の強みを整理しましょう！



◎よく当てはまる、○当てはまる、△少し当てはまる)

Q1：提供してあげたいものは？

- () 人とのふれあい
- () 自然とのふれあい
- () 文化とのふれあい
- () 高度な情報とのふれあい (体系化された資料/施設)
- () 体験できる“場”、“機会”、“仕組み”
- () その他 _____

Q2：体験を通じて目指すものや、根底の価値観は？

- () 受験含めた知識/学力の向上
- () 自分で行動する力、稼ぐ力、生きる力
- () 自分で考えて課題解決する力
- () 仲間と協働して取り組む力
- () 人生を楽しめるように学び・体験する力
- () その他 _____

Q3:どのような体験・問いかけなら、実現できるのでしょうか？

Q4：チェックシートで確認しましょう！

見せ場はありますか？どう見せる／魅せる？

- メインの現場
- 前後工程 (土台・裏側なども)
- 事業所以外 (道の駅など周辺観光施設)

さわれますか？伝わりますか？

- 触れる実物 (生産設備、観測装置など)
⇒全員分あり/無し
- 触れるミニチュアやモデル
- 遠隔で操作・観察できる道具
(顕微鏡・望遠鏡をオンラインで公開など)

資料ありますか？ (事前事後学習にも)

- 見学施設での動画資料 展示パネル等
- 事前配布・公開できる動画データ
- パネルのデジタルデータ

どんな人がいますか？

- 現場できめ細かく対応できる人材
(思いがある、自分の言葉で語れる)
ワークショップなどを支援できる人材
- 学術的に説明できる・資料を作成できる人材

学べる仕組みはありますか？

- 図式化した事業活動や理念
- 独自の事前学習シート
- 学校訪問やオンライン講義に対応できる人材
汎用アプリを用いた参加型授業ネタ
(地図、経路、データ解析など)
- 事前質問の仕組み
- 事後対応の仕組み (継続した修行・研究など)

①伝えたいことを深掘りシート

氏名 _____
所属 _____

No. _____

【このシートのねらい】

児童/生徒に伝えたいことを、掘り下げたり、まとめたりするシートです。
他のシートと往復したり、書き直したりすることもあります。

- 仮タイトル

- 伝えたいこと

- 右側を図解を参考に、掘り下げたり、まとめてみましょう！
もっと伝えなかったことに気づくかも知れません。

参考になる図解

比較
項目で要素を比較
例：過去と現在

1		2
...	A	...
...	B	...

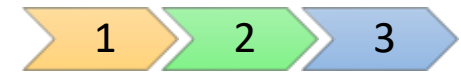
流れ

Before⇒After

過去⇒現在⇒未来

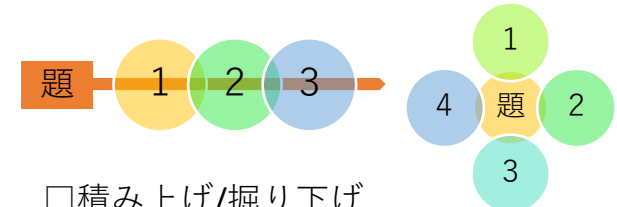
原料⇒加工⇒製品（サービス）

課題⇒対策⇒結果



要素のまとめり

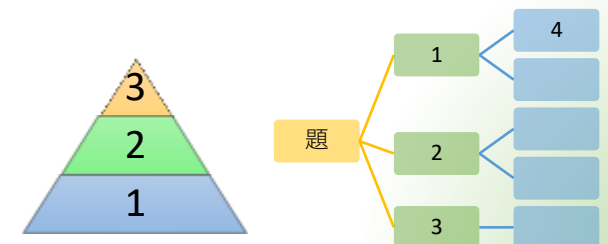
異なった要素を題の視点で串刺し
共通の題から要素が広がった



積み上げ/掘り下げ

1, 2, 3と順番に、積み上げて
社訓や事業理念にして活動

題から掘り下げて事業を深掘りした



③伝えるためのストーリーシート

氏名 _____
所属 _____

No. _____

【このシートのねらい】

体験当日の流れを想定しつつ、伝えたいことに絞ったストーリーを作りましょう。
①のシートから、セールスシートに掲載する4点の写真をイメージしましょう
②のシートから、事前事後学習への振り分けを考えましょう。

- 写真を並べる = 説明順の例
- 体験の時系列
- 原因⇒結果
- 大きい視点⇒小さい視点
- 製品⇒サービスの流れ

例：写真3つは流れで選び、
→1つは拡大/人の顔を入れる
→1つは補足で図解を入れる

タイトル/コンセプト/キャッチコピーなど

写真1

写真2

写真3

写真4

事前

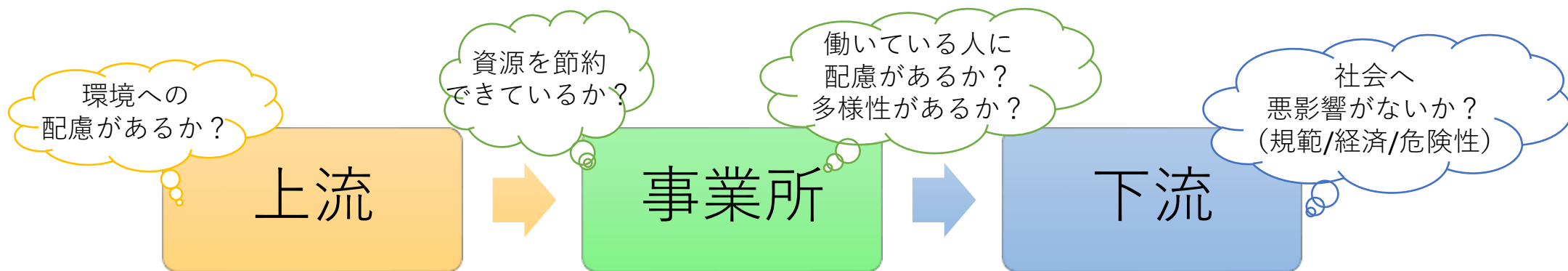
現地

事後

過程の中で考える

SDGsらしい要素を、過程を分解して探してみる

- 因果関係 課題 ⇒ 解決策 ⇒ 結果
- 処理工程 原料 ⇒ 加工 ⇒ 製品



造成支援において

- 事業者らも、SDGs、探究学習としての視点を意識してもらっていることがご理解いただけたかと思います。
(浸透しているかは別として)
- 探究プログラム化（授業化）しやすい事業者、地域など、見つけてきました。
- 今後の教材化・授業化は、皆様からのフィードバックが重要かと思います。

東武トツプツアーズ 福田氏 事例報告を受けて

地域探究の豊富な話題を整理しつつ、
実践例を探究的に紐解き、

『事業』から『人』の単位まで
見本/手本として掘り下げる手法を紹介したいと思います

幅広い地域探究への話題提供

地域全体での
探究学習支援/地域学校協働

地域プレーヤー視点での
地域協働の芽（ネタ） & グチ
（活動/大いに賛同も、協働に至らない現状）



地域をフィールドにした
学校/生徒の探究例

先進事例に譲ります
端から見た懸念を整理中
（相談&いつでも支援できるようスタンバイ）

論点整理



地域活動（イベント/プロジェク
ト）の探究的理解と参画方法

祭・出店・屋外イベント・婚活
調査事業ほか実践と学術的整理
（大学生/教員参加：多、中高生参加：小）

論点整理



実施例
& 方法論

地域内主体（事業者やガイド含む）
による探究学習プログラム化・支援

実績多数 & 学術的裏付⇒方法論
・議会/プログラミング
・観光協会支援（地元の学習⇒誘致）
・放課後こども教室等（NPO）



実施例
& 方法論

教室でも出来る
地域を題材にした探究

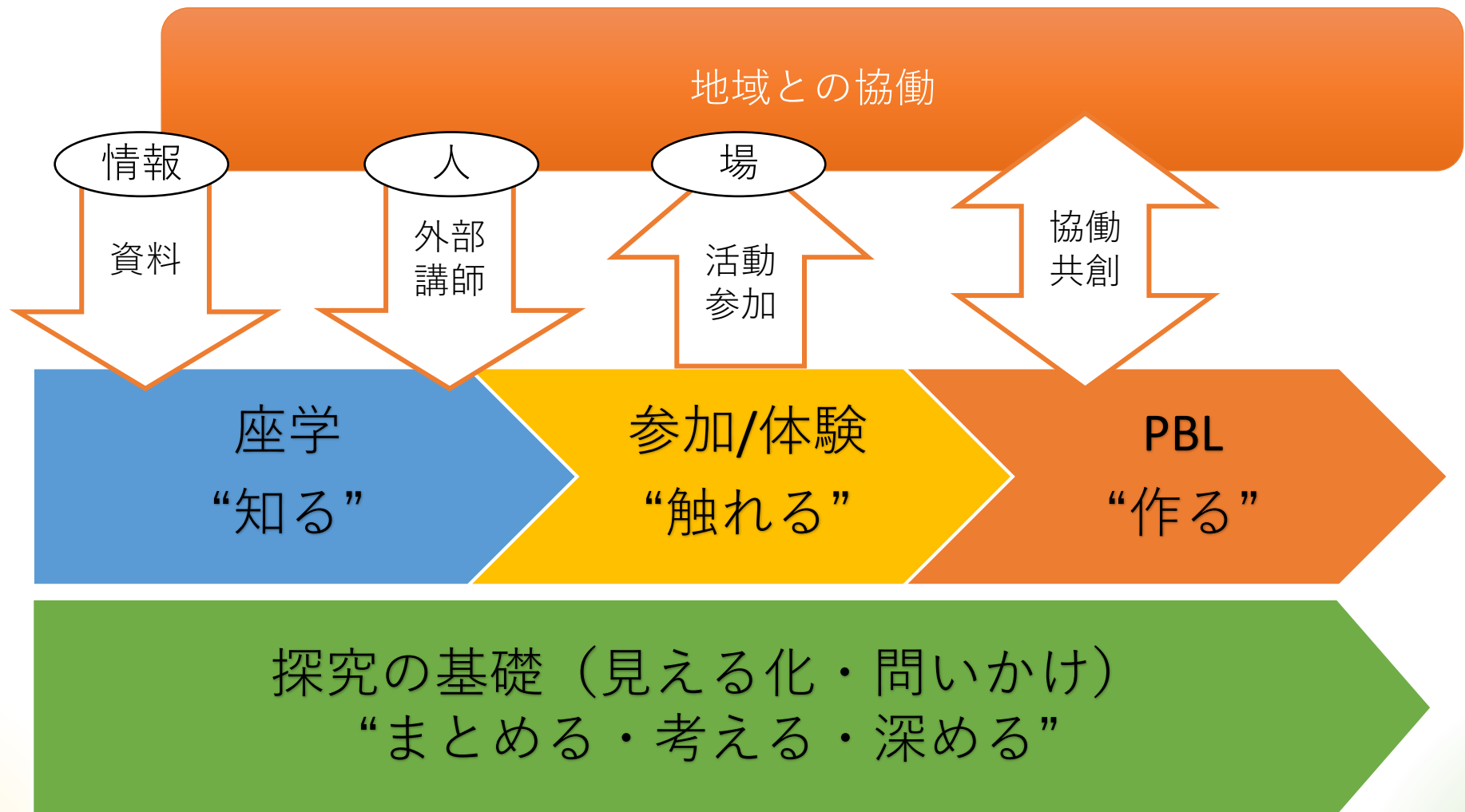
・大学授業から構築
・高校生向けウェビナー実施

論点整理

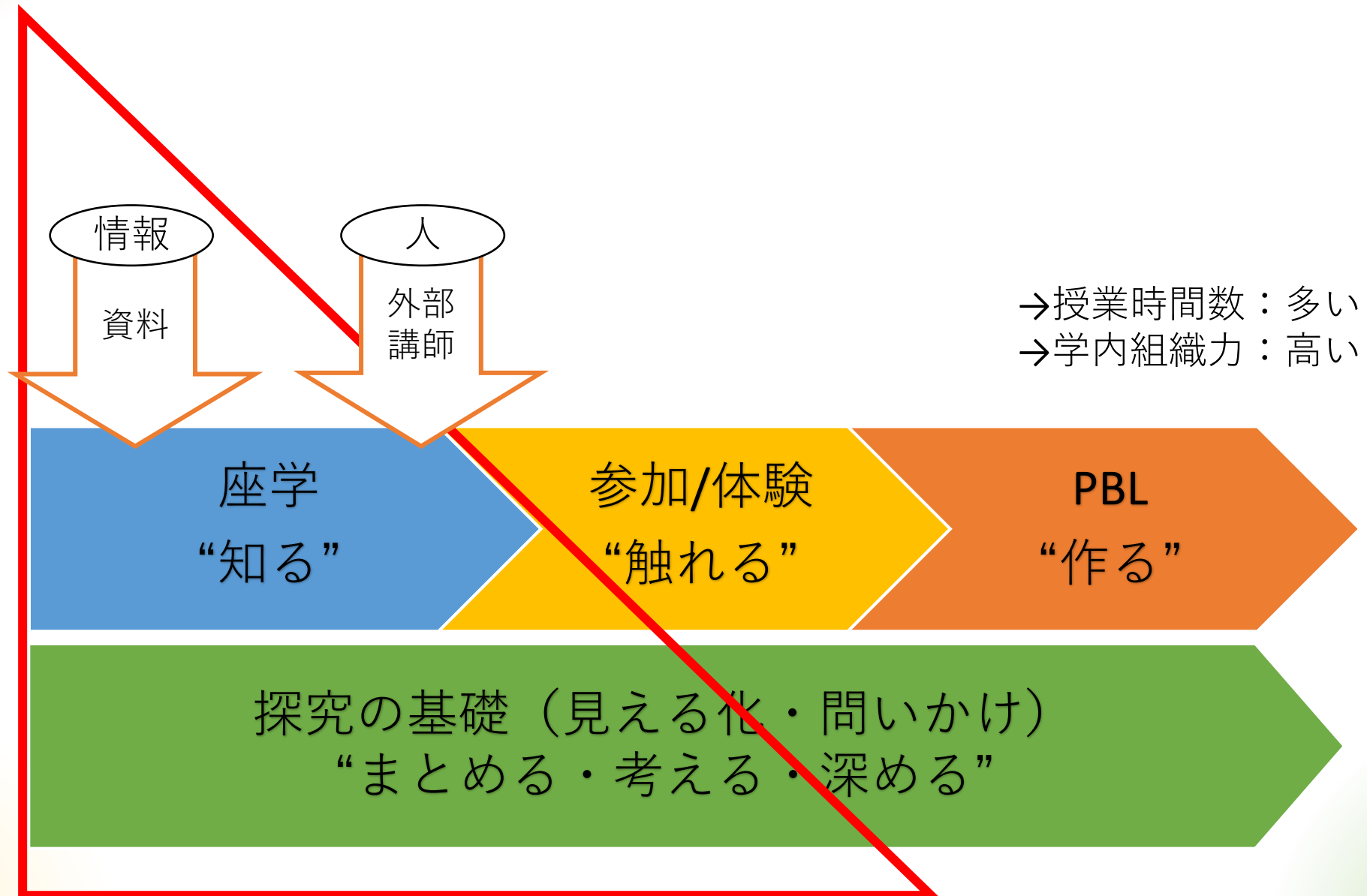


実施例
& 方法論

地域との協働でできること



ここから地域探究を始めても

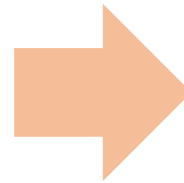


地域活動における探究

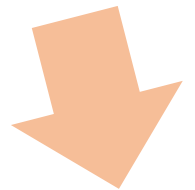
島婚の実際の活動を、探究的に整理しました。
実施中の課題整理と、
昨年は高校生のオンライン講座にも
体験ワーク化して活用しました。

地域活動を探究化（探究サミット登壇）

婚活事業（2013-2016年度）



島体験交流イベント（2017年度）



※ポスター等 新島村商工会より提供

東京都縁結び観光事業から発展し、
他企業との連携（2018年度）



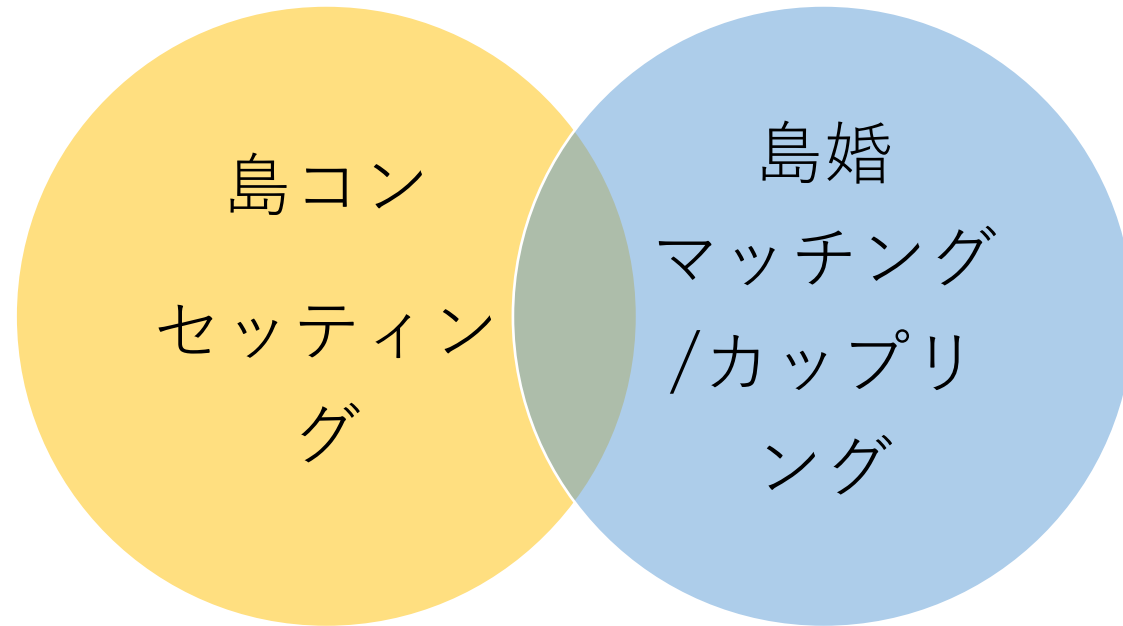
旅サイト Trippiece の「I ♥ 島タビ」

【新島女子タビ】ここが東京？
"青と白の島"を島人とめぐろう♥

このツアー参加のみなさんを
島男子がご案内 & 縁結び交流会
星空レストランでの貸切パーティーで盛り上がりましょう



実例：島コンか島婚か？



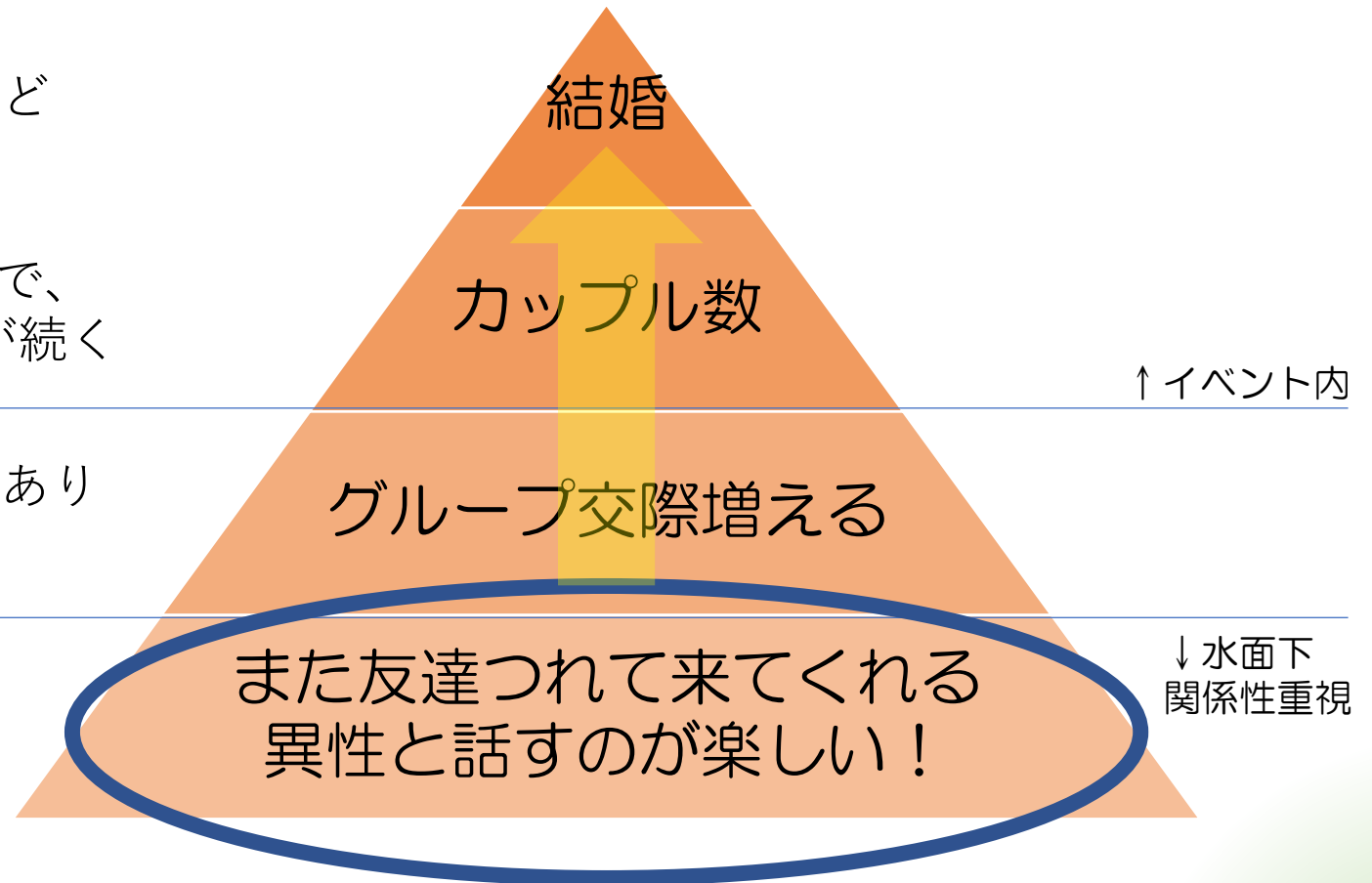
- 関係性構築、ファンになってもらうことを重視。
- 女性は異性との出会い目的でなくてもよい。男性もおもてなしだけで良い
⇒はずかしくない！
- 少子化対策からカップリングを重視。
- 男性も女性も本気。島内でもプライバシー保護。
⇒成立しないとキツイ？

実例：婚活の成果とは？

③婚姻は毎回1 - 2組など

①男女15人～20人の参加で、
5割以上のカップル成立が続く

②マッチング外での婚姻あり



④婚活は人材育成だ！というスタッフ内の気づき

スタッフの思いと 仕事の対象

スタッフ対立の構造を、
言語化し、
図解化もしてきた。

その後、汎用ワーク化し高校生に共有。

おもてなし
おぜんだて
おせっかい

3つをつなぐおもい






おぜんだて

おもてなし

おせつかい

ワーク：婚活業務を分類しよう！

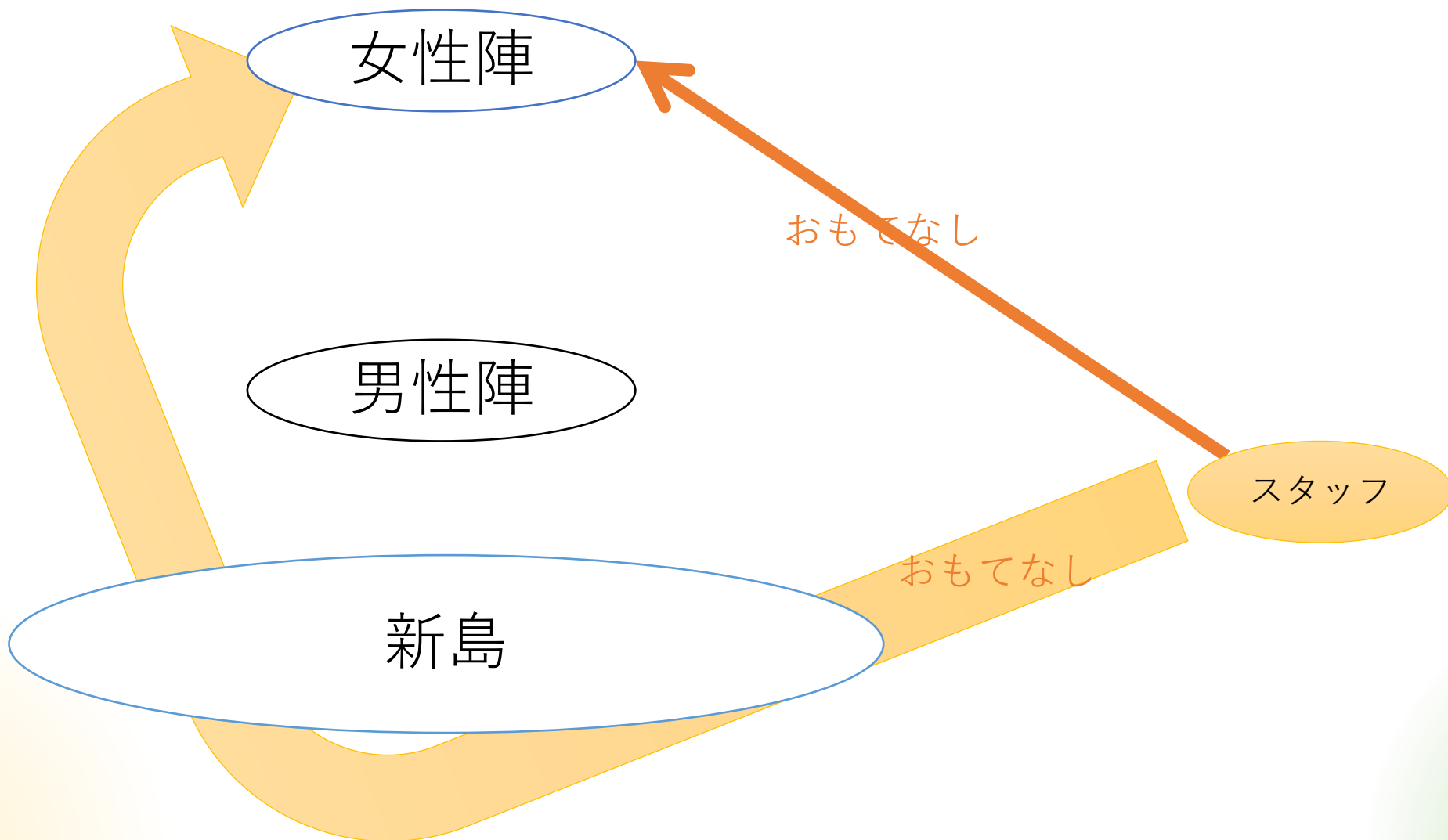
イベントでのあなたの活動は？

	おぜんだて	おもてなし	おせっかい	
人				<ul style="list-style-type: none">• イベントでの活動をふせんで移動させてみよう！• 足りないものはコピーして記入してもよい <div data-bbox="1351 910 2037 1364"><p>オンラインのホワイトボードでグループワーク化してみました。</p></div>
モノ モノゴト				
会場/ 雰囲気				
その他				

高校生ミライ探究部 2023 summer 制作：木村諭史 受講者以外への無断配布/転載を禁じます

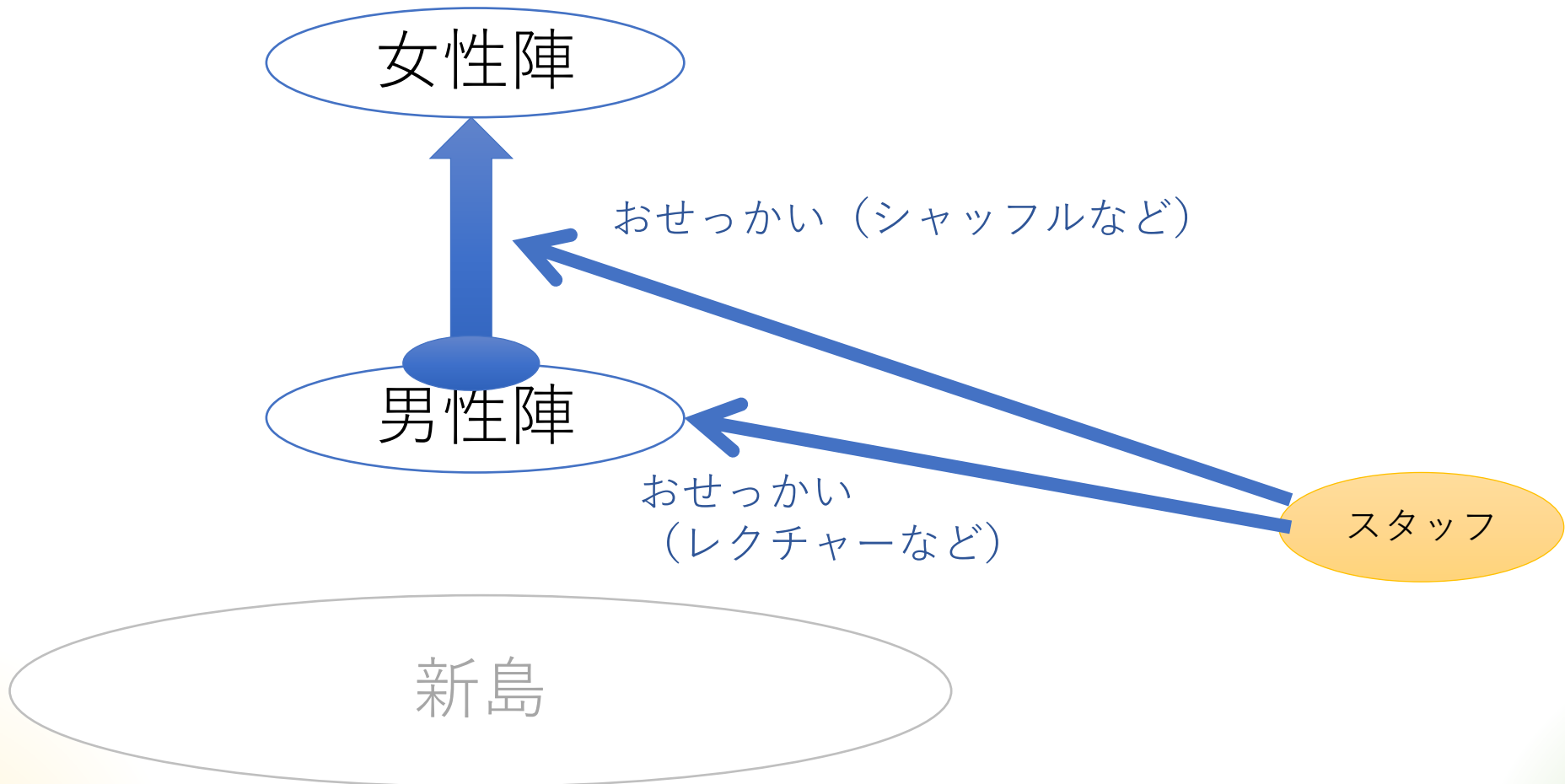
おもてなし

『参加した女性をおもてなししたい！』
『島を好きになってほしい！』



おせっかい

男性と女性の接点を作る。好感を伝える。
事前に男性陣をサポートする。



おぜんだて

男性の裏側にある助け合いや
豊かな島暮らしを伝えたい！

女性陣

『参加男性の良いところを引き出したい！』
『良い雰囲気を作りたい！』
(音楽や空間演出など)

男性陣

いいところ引き出したい

島仲間

← おぜんだて

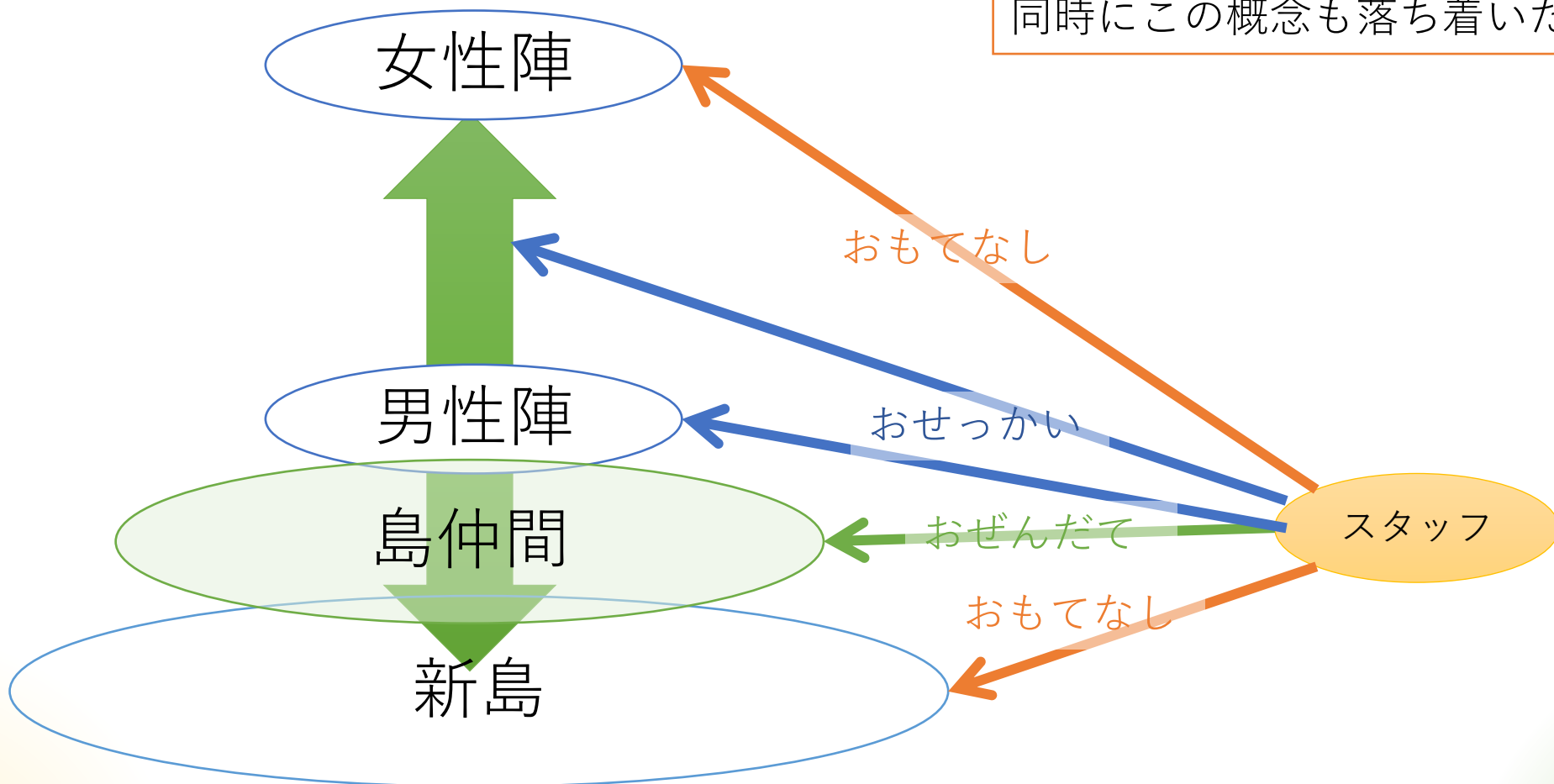
スタッフ

島の活力

新島

おもいでつないだ 新島の島婚！

婚活は人材育成だ！という
気づき生まれたから、
同時にこの概念も落ち着いた



探究スタイルを考え、 出番/役割などを説明

スタッフの4つのタイプ

※4つのタイプの表現は、以下より参照

伊藤守：監修、鈴木義幸：著

図解：タイプ分けを知ってアプローチするとうまくいく

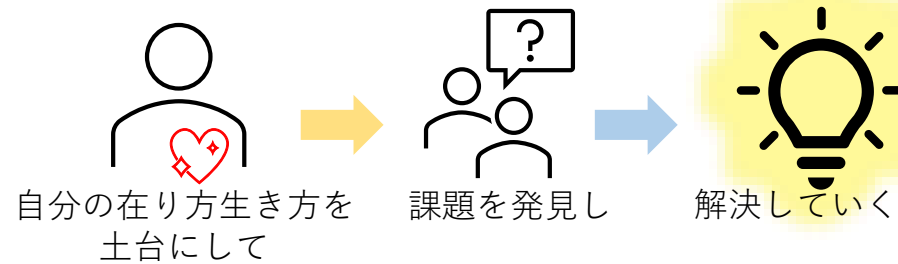
株式会社ディスカバー

- コントローラー : 仕切るのが得意
- プロモーター : 盛り上げるのが好き
- サポーター : 人に尽くすのが得意
- アナライザー : 問題を発見・解決するのが得意

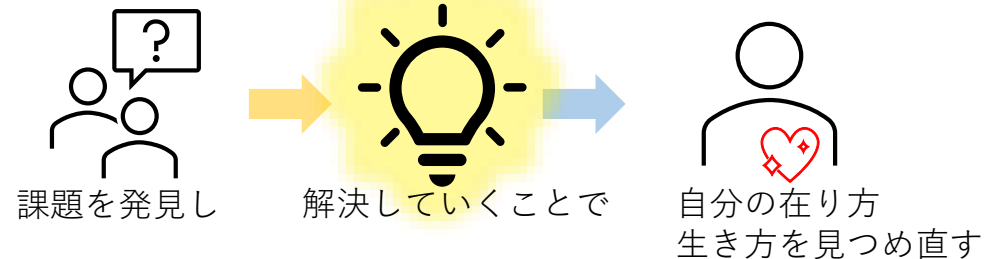
探究スタイルをチェックしよう！

※高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編を元に
木村作成

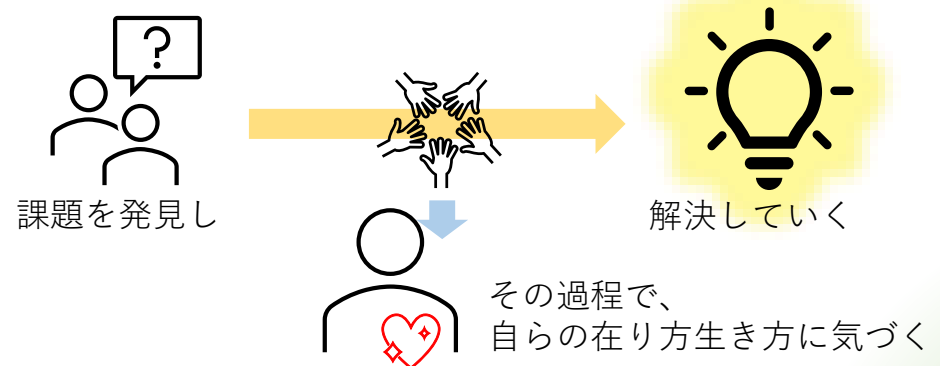
自分が土台
パターン



見つけ直す
パターン



過程で気づく
パターン

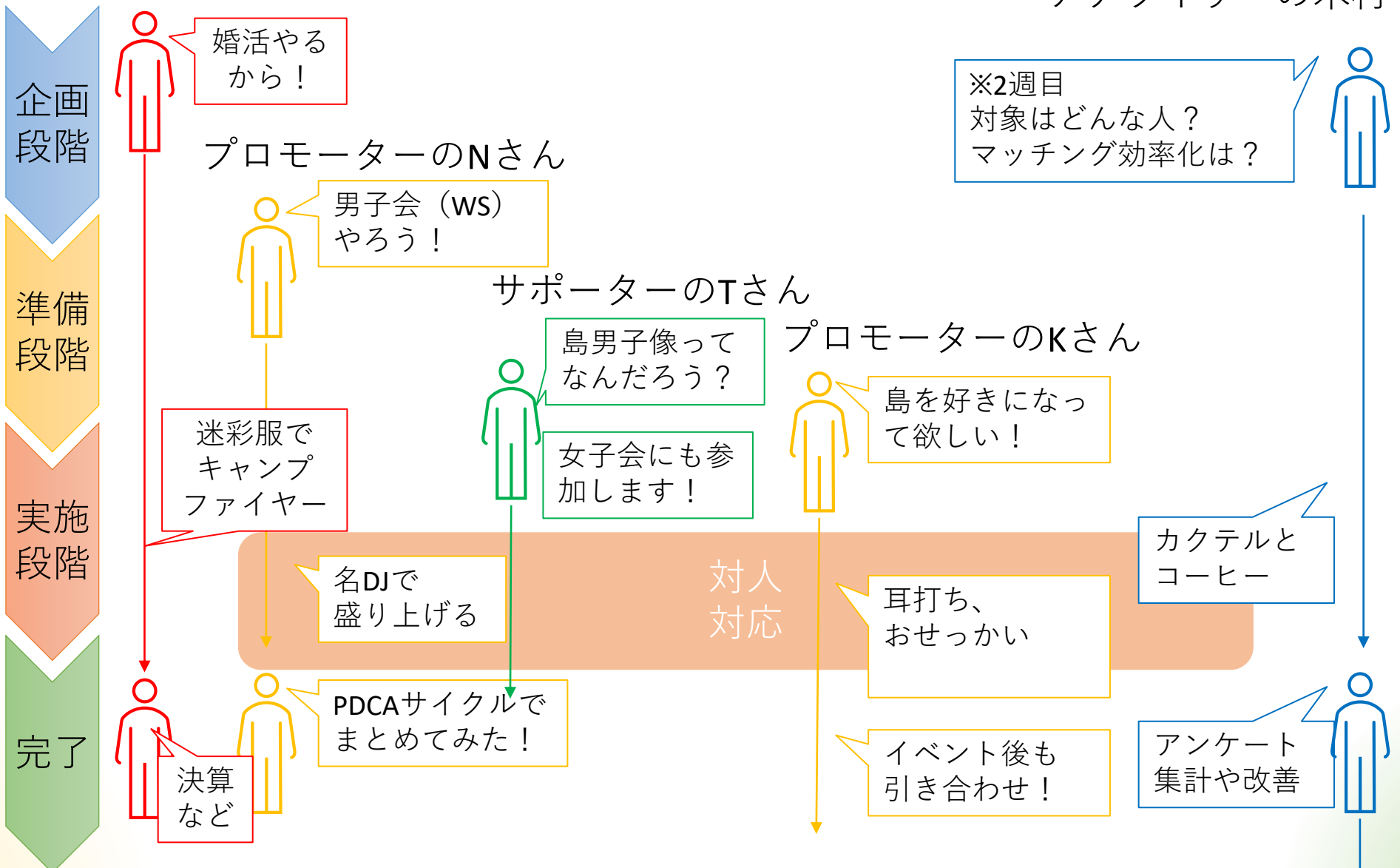


合う合わないを理解するために、やってみる、のも正解

タイプ別 スタッフの役割分担

コントローラーのSさん

アナライザーの木村



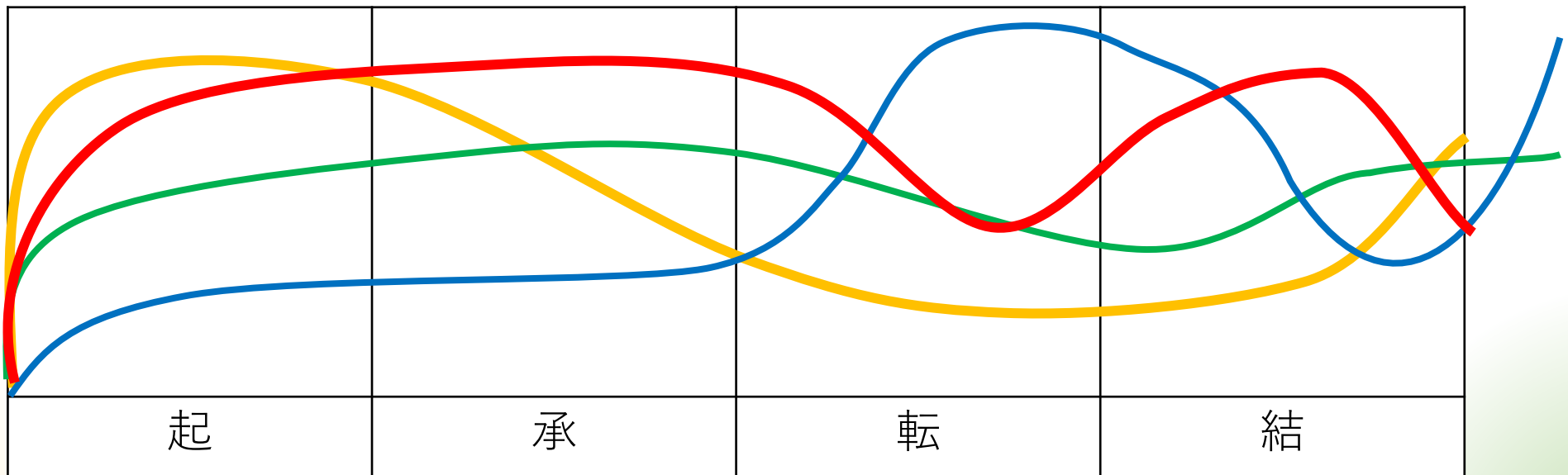
あなたの“出番”ワークショップ編

コントローラーが打開しようと
アナライザーに発言を促して

サポーターが意見をメモして
⇒アイデアが一度出尽くして

プロモーターが盛り上げて
コントローラーが仕切って

結論に向けてコントローラーが仕切る
プロモーターは盛り上げ⇒打ち上げ
アナライザーはまとめ残業



地域活動は、探究に通じる

実際のプロジェクト内で起こった、考え方/立ち位置の違いは、一度で解決せず、PDCAサイクルを経て解決できた。

問いや見える化への真摯さ、他者との協働（高い探究的資質）

⇒学歴よりも本人の探究歴（経験・姿勢）

⇒探究学習への期待&貢献意欲（良き協力者）

⇒地域活動への貢献度・参加頻度が高い

教わりたかった
探究学習

大学の授業の知見も大いに活用し、探究エッセンスも加え高校生向け参加型ワークとして実用化できた。

- 腑に落ちない、ハラオチする感覚は、全般的に有効
- 得意な対象（人、モノ/物事、場）で役割分担⇒尊重
- 概念図は、言葉・範囲・違いへの感度を高めて対処

磨けばつかえる
探究教材
（痛い教訓）

地域探究人材へのインタビュー

取り組みを探究的な見方・考え方で整理可能

- 企業理念/報告書など探究図解を探ってみる
- 図解などの活用（完成形を配ると一度きりだが）
 - 穴埋め、記入式ワークシート。生徒が自ら整理できると力になる
 - 説明する方も先に型を自覚しておく。

交流の機会を無駄にしない事前の整理を（議会体験での例）

- ×：議員は何人居るんですか？ ←先に調べて欲しい/事前説明しておく
- ：議員は10人と知ったのですが、どう決まるのですか？
- ：議員になって良かったことは？
- ◎：事前に○○の活動を見ましたが、これはなぜですか？こういう考え方もできませんか？

地域探究人材との連携

どのステップで
呼んでいる？

- 下調べ、ネタ探し
- アイデア出し相談
(ブレインストーミング)
- 地域活動の協力依
頼・相談

何の役割を
期待して？

- 聴衆、参加者
- ファシリテーター
- 地域探究の先輩
(協力依頼の下心
あり)

ご静聴ありがとうございました

地域は探究で満ちていることを
実感いただけましたでしょうか？

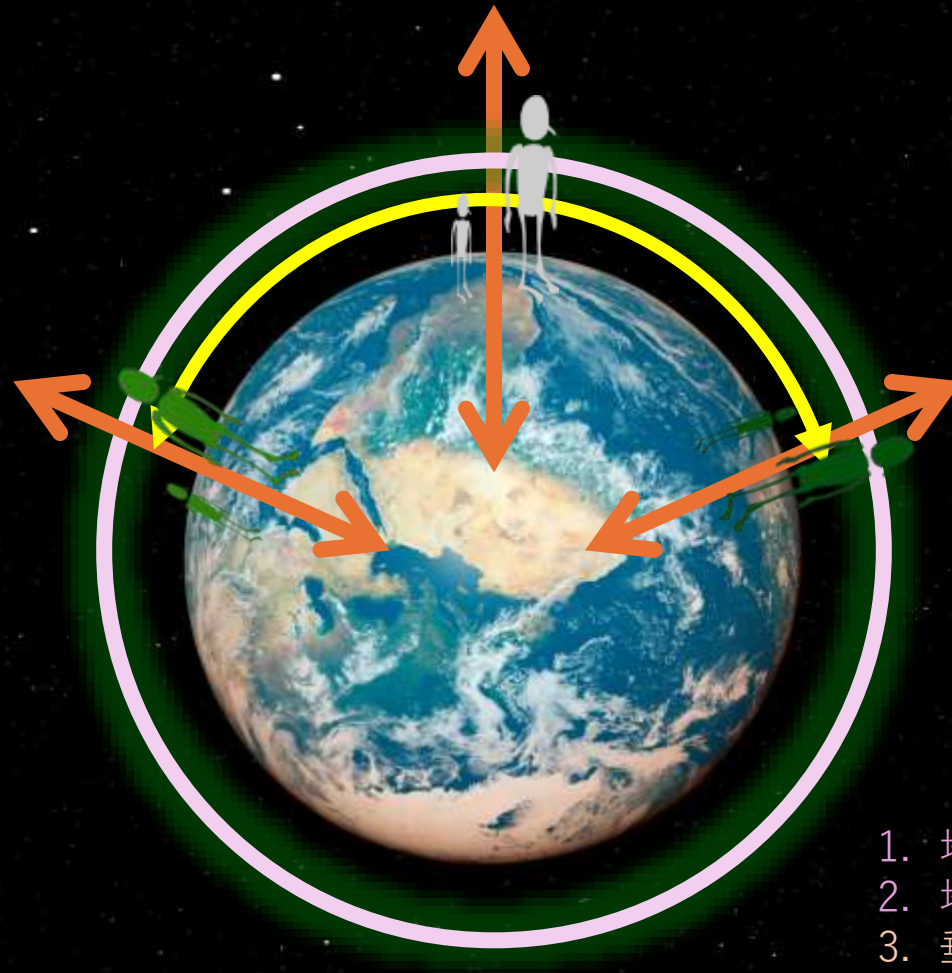
情報量の多いスライドは配布資料にて
ぜひ見返してください。

割愛した内容は別の機会でご要望を
私が説明できない例もごさいますが、
ご容赦ください

地域を挙げた高度な探究例
学習者の意欲と環境により自走した例

それではクロストークへ

グローバルとはなにか？



1. 地球本位
2. 地球の位置づけ
3. 垂直展開
4. 水平展開

地域 × 探究に期待すること

地域の計画/事業/人/取り組みの中を読み解けば、
すでに試行錯誤 ≡ 探究サイクルのお宝の山

探究的な型（見方/考え方）に対する適切な理解を広げる

- ご当地ならではの型・軸・キーワードがある。
- 押しつけでないことを理解した上で活用。守⇒破⇒離

【課題】を地域**【問題】**に限定せず、
探究学習サイクルの**【課題】**、自分の**【お題】**として捉える

- 例) 一時期の地域活性化⇒大学生がお医者様、地域が患者、例) 金槌を持っていると全て釘に見える
- 知るステップ、探究的知見を読み解くステップも忘れずに

現在進行形の探究に取り組む余裕

(探究を探究する、探究を楽しむ、探究学習自体が普及段階であることを理解する)

- 行政側の大人も習っていない ⇒理解が及んでいない場合も
- 全てに通じるのだから、自分自身や学校の課題すら探究化できる

地域探究学習の“課題”

課題解決への傾倒

- 『社会課題/問題 解決』に拘り過ぎる

適切でない設定

- ステップ/サイクル的に捉えていない

単独/単発的

- 学校を越えた地域のカリキュラムがない
- 意欲ある教員による孤独な実施

探究における課題を考える

課題に限らず、“題”を含む言葉を整理しました

⇒ 質疑応答・クロストークの話題も整理

社会問題 = 課題

- 児童/生徒と繋がっているか？ 駆り立てていないか？

教育環境の課題（問題）

- 例：教員の地域探究資源の把握不足、学内共有や地域連携不足に課題
- 例：自由度/難易度調整が課題

学習者が自ら考える学習課題

- 何をどう学ぶか決めていく過程（本来の探究学習における課題かと）
- 理想に向かって現実から変えていくための取り組み

お題・題材（分野・地域の探究資源）

- 研究の主題、テーマ。
- 地域の探究素材 ⇒ 題材

이슈ー、重要な論点

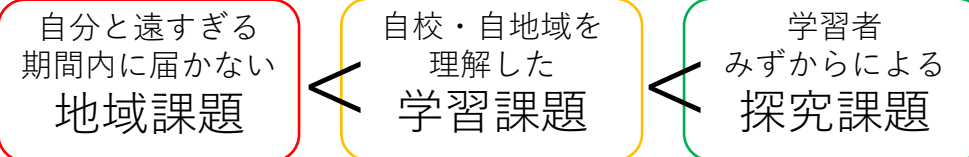
- プロジェクトの勘所（探究サイクル・掘り下げによる明確化が重要）

教育として、与えたい（課せられた）題、・・・宿題

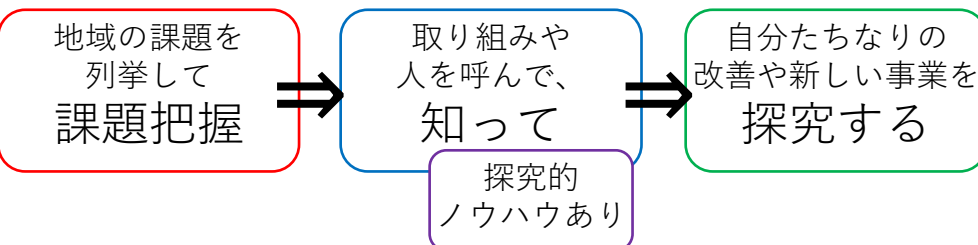
- 学習者に気づきを得てほしい、成長につながってほしい。
- 学校種を超えた、地域ならではのカリキュラムデザインが望まれる

木村より

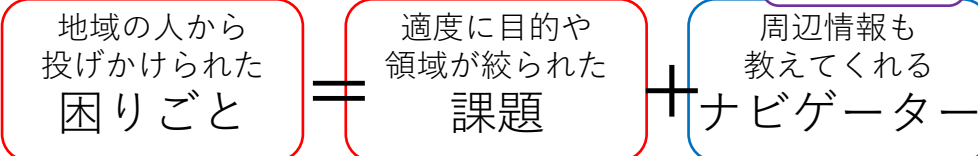
完全に自由な状態で社会課題とその解決に拘るよりも教育環境の課題を踏まえて、探究学習を整えてほしい



探究のステップとして、課題解決を出発点に挙げるのではなく、課題を知る・把握する⇒その後に取り組みや地域の人を知り、⇒自らの学習・探究の課題を解決していけるようにしてほしい



藤田講師より



木村補足：困りごととして提示されることで、地域課題を地域の学習課題・題材・お題として活用でき、ある程度方向性が絞られているから、集中して情報収集・探究できる。また相談者が周辺情報のナビゲーターとしてサポートできる。

探究における（課）**題**を考える

課題に限らず、“題”を含む言葉を整理しました

⇒ 質疑応答・クロストークの話題も整理

社会問題 = 課題

- 児童/生徒を駆り立てていないか？

教育環境の課題（問題）

- 例：教員の地域探究資源の把握不足、学内共有や地域連携不足に課題
- 例：自由度/難易度調整が課題

学習者が自ら考える学習課題

- 何をどう学ぶか決めていく過程（本来の探究学習における課題かと）
- **理想に向かって現実から自ら変えていくための取り組み**

お題・題材（発表のテーマ、分野、地域の探究資源）

- 研究の主題、テーマ。
- 地域の探究素材 ⇒ 題材

イシュー、重要な論点

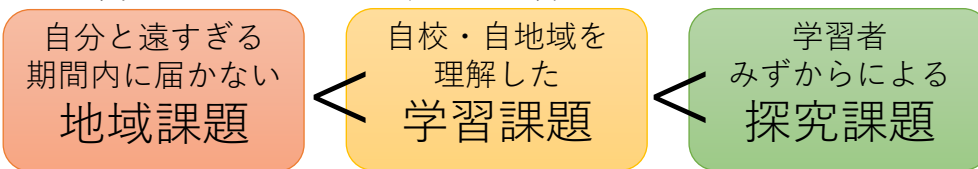
- プロジェクトの勘所（探究サイクル・掘り下げによる明確化が重要）

教育として、与えたい（課せられた）題、・・・宿題

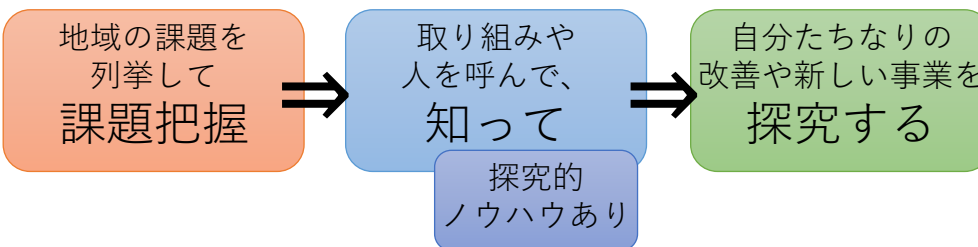
- 学習者に気づきを得てほしい、成長につながってほしい。
- 学校種を超えた、地域ならではのカリキュラムデザインが望まれる

木村より

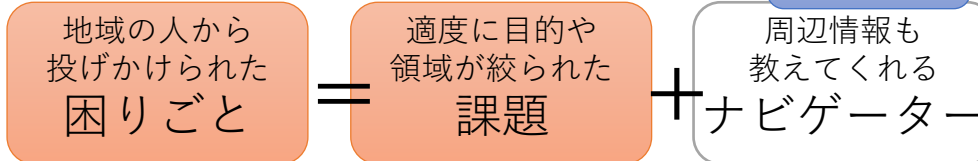
完全に自由な状態で社会課題とその解決に拘るよりも教育環境の課題を踏まえて、探究学習を整えてほしい



探究のステップとして、課題解決を出発点に挙げるのではなく、課題を知る・把握する⇒その後に取り組みや地域の人を知り、⇒自らの学習・探究の課題を解決していけるようにしてほしい



藤田講師より



木村補足：困りごととして提示されることで、地域課題を地域の学習課題・題材・お題として活用でき、ある程度方向性が絞られているから、集中して情報収集・探究できる。また相談者が周辺情報のナビゲーターとしてサポートできる。